

# 裏切りと屈服 = 「反ファッシュ統一戦線」の実態

「本部」革マル反動分子がもちこんだ



より露骨になつたセクト運動

今日、動労が革マル派のセクト運動に大きく露骨に踏み出したということが第三六回全国大会の最大の特徴点として、階級闘争、労働運動を闘う人々の間では認識されています。

社会党との共闘姿勢の明白な後退、日共との野合としか言いようのない突然の癒着、「反ファッシュ統一戦線」という名の「第二水本」運動— これらが、「動労が一切の労働組合としてのケジメを投げすてて、革マル派として動き出した」と称されるゆえんなのです。

われわれは、この間、特定の党派を「敵対党派」と規定すること、「水本謀略」へののめり込み、世の中で革マル派しか使わない言葉での三里塚闘争への敵対等を、「労働組合としてやるべきではない」という立場から、断固反対してきました。このわれわれの主張の正しさは今日歴然としています。

「本部」反動分子は、小谷教宣部長襲撃事件を「権力の謀略」と規定し、組織内への強制はもちろん組織外に対しても糾弾決議の要請を行なっています。しかし、この「小谷事件」を「権力の謀略」だと信じている動労組合員が全国に何人いると云うのでしょうか。

労働組合の側から、特定の党派を敵対党派と「組織決定」し、「ファシスト」「権力の手先」とまで悪罵を投げかければ、相手が動労を「革マル派」と規定し報復に出してくることは目に見えています。動労の組合員の全てが、腹の中ではそう思っていることがそのまま口に出せないという動労の暴力支配の現実が、この抗争をより激化させることもまた必然です。

# 日刊 動労千葉

80.10.26

No. 全国版 70

## 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二五八九・九(公衆)四五三二七二〇七

### 第36回全国大会報告(766)

全国の動労組合員のみならず！われわれは第三六回全国大会における「本部」反動分子の破産の実態を五回にわたって明らかにしてきました。今回は、結論的に、この第三六回全国大会から予想される今後のセクト運動の方向性と問題点について明らかにしていきたいと思えます。

#### 合理化と屈服の路線

われわれは、第三六回全国大会以降、「本部」反動分子が、声高に叫びだした「反ファッシュ統一戦線」の本質をしっかりと見据え、動労大改革の戦闘的再生を早急にかちとらなければなりません。その具体的な例として、われわれは「乗務員運用合理化」を見なければなりません。昨年八月の動労東京地本大会で「協定以上の要員は吐き出す」と決定されて以降、今年三月、六月の二度にわたる乗務員運用合理化策動を、われわれは全国の仲間とともに粉碎してきました。

しかし、「五五・一〇」の中で、東京管内の乗務員運用合理化が、「本部」反動分子と国労東京革同の裏切りと屈服によって強行されてしまったのです。しかも、この「一九六九年当時の労働条件にもどす」という大合理化を、「一一・一」で動労千葉に強要し、「五六・一〇」では全国化するといふのです。

これこそ、日共との野合「反ファッシュ統一戦線」が職場・生産点に対しては何をもたらすのかということの具体的現実なのです。

#### 全国の動労組合員のみならず！

このような反ファッシュ統一戦線なるものに動力車職場の未来を託すことができるのでしょうか。第三六回全国大会は、全国の良心的、戦闘的仲間によって、大会の場では、大きく「本部」反動分子のセクト方針の誤りを正したと言えます。しかし、そのような大会決定を無視し、セクト運動にだれだれもとうとしているのが今日の「本部」反動分子の実態なのです。

今こそ決起して、正しい動労運動を再生してゆこうではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！